

思いやり医療 Vol.1

医療機関の役割分担について



現在、1つの医療機関で治療からリハビリテーション、長期療養まで行うことは少なくなりました。患者様の状態に見合った病床で、その状態にふさわしい医療を受けることができるようになっていきます。入院期間を減らして早期の家庭・社会復帰を目指しています。そのため、医療機関の機能分化が促進されており、各病院（病床）の得意分野に重点的に力を入れるようになってきています。すなわち、患者様の必要に応じて「転院」という仕組みになっています。

【 病床の種類 】

○一般病床

急な病気や怪我、持病の急性増悪など重症で緊急に治療が必要な状態である患者様に対して、入院や手術、検査などの高度で専門的な医療を行う病床です。

○回復期リハビリテーション病床

脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者様に対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病床です。

○療養病床

急性期を脱して、全身状態は安定しているものの、継続的な治療が必要なため長期入院をするための病床です。

○緩和ケア病床（ホスピス）

「がん」の治療が困難な状態にある患者様が、痛み、苦しみに対する身体的、精神的ケアを行いながらその方らしい生き方ができるようにする病床です。

○精神病床

精神疾患の検査・治療を目的とした病床です。

※詳細をお聞きになりたい方は、

1階32番の医療・福祉総合相談窓口相談員または2階21番の入退院支援看護師までお問い合わせください。

